

# 施設介護に携わる介護者のためのユニフォームについて — 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・介護療養型医療施設の比較 —

田 岡 洋 子・近 藤 信 子・中 川 早 苗

京都短期大学・中国短期大学・広島国際学院大学

## Uniforms for Nursing Home Workers

### — A Comparison Among Special Nursing Homes for the Elderly, Geriatric Health Care Facilities and Geriatric Medical Facilities —

**要旨** 施設介護に携わる介護者のための被服について検討するため、京都府・岡山県・大分県内の施設で介護に携わっている人を対象に配票留置法による質問紙調査を1999年および2000年の8～10月に実施した。施設への配布数は314票で、回収率82%である。

介護服の評価に関する23項目への評定尺度得点を基に因子分析を行って主要な因子が抽出され、介護療養型医療施設（療養）では「素材特性」「標識性」、介護老人福祉施設（特養）では「審美性」「デザイン性」、介護老人保健施設（老健）では「活動性」の因子得点が高い値を示した。

望ましい介護服のイメージについては、形容詞対18組のSD尺度への評定を基に因子分析を行い、特養は「落ち着いた着き」と「容儀性」、老健は「カジュアル性」と「ファッション性」、療養は「親しみやすさ」「ファッション性」「カジュアル性」の因子得点が高い値を示した。望ましい介護服の色では、ピンク・水色・白などの明るく淡い色。望ましい介護服の柄は無地と回答する割合が多かった。望ましい介護服のアイテムとして、特養では、冬はトレーナー・夏はTシャツ・春秋はポロシャツなどの上衣に、下衣はジャージと回答する割合が大きかった。療養では、トレーナー、Tシャツ、ジャージの下衣、ハーフパンツの着用希望が多かった。

以上のように三施設における成り立ちや歴史、施設の機能、役割が異なり、介護服に対する考え方も異なることが分かった。

**キーワード** 介護服、望ましい介護服のアイテム、望ましい介護服のイメージ

## 1. はじめに

高齢社会の日本では高齢者介護のための施設が各地で増設され、介護に携わる介護者も増えている。介護者が着用している介護服の多くは、市販のユニフォームやジャージーなどのスポーツウェアなどできめ細やかな介護をするには問題点も多く、必ずしも介護に適しているとは思えない。そこで本研究では、実際に介護に携わっている介護者を対象に、介護者にとっても介護される高齢者にとっても望ましい介護服について明らかにすることを目的に、介護保険適用施設である介護老人福祉施設（特養）・介護老人保健施設（老健）・介護療養型医療施設（療養）で

介護に携わっている人を対象に、それぞれにとっての望ましい介護服について調査をもとに比較検討した。

福祉のイメージはおしゃれ感に縁遠く、歴史的に最低の生活保証をすればよいという考えであつたが、趣味豊かに生活を営んできた現在の高齢者は食事・排泄・清拭の介助だけでは満足せず、生活歴を踏まえた生き甲斐を持つ生活続けることを望んでいると考えられる。これらの考えを持った高齢者にとっておしゃれ感もなく、ただ動きやすいことのみを追求した、介護服での対応でよいものかどうか考えたいと思う。

本調査に先だち予備調査として資格修得間近な介護福祉士や経験豊かな社会人に対する訪問介護員養成講座の調査結果をもとに、本調査内容を決めた。

## 2. 調査枠組と方法

介護感は介護の方法や介護服に対する考え方に関連するという仮定にたつて、調査枠組を作成し、調査項目を設定した。年齢、家族構成、性別などの基本属性により介護に関係する職種を選び、勤務形態や施設の種類も選んでいると考えられる。

主な質問項目は基本属性や介護従事形態などの独立変数と、説明される変数としての従属変数である、現在着用している介護服の種類と問題点、望ましい介護服の重視項目やイメージ、色、柄、アイテムなどである。

調査地は西日本の京都府、岡山県、大分県である。その地域の施設で介護に携わっている介護者を対象に配票留置法による質問紙調査を1999（平成11）年・2000（平成12）年の8～10月に実施した。有効回収数は398票で回収率は82％であつた。

今回比較する特養・老健・療養の調査対象者は特養162人、老健58人、療養94人の314人である。老健は病院を退院し、自宅へ帰る前にリハビリを充分するために創設された施設である。療養も同じような条件ではあるが、病院内に併設されて、一般病院であつたところが、介護保

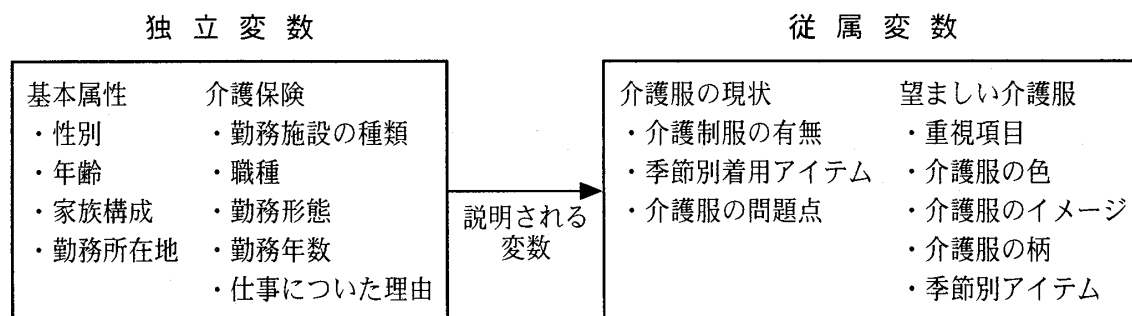


図1 調査枠組

険をにらんで申請され、建造物の手直しをしたところもあると聞く。病院が老健を併設したりする例も多く、最近では特養をも併設しようとしている例もある。また従来の特養と形態を変えて増える傾向にある。高齢者のためには特養が増えて、介護保険制度もうまく機能することを願う。

### 3. 調査結果と考察

#### 3-1. 調査対象者の概要

表1は調査対象者の基本属性や介護従事形態を項目別に単純集計したものである。

##### ①性 別

女性の多い介護職ではあるが、老健の男性比率が多く、26%以上の方の回答を得た。他施設は15%以内の比率で、女性の回答が多い。介護は女性の仕事という古い考え方ではなく男性の力も活用しようとしていることが伺える。

男性と女性の割合は老健では1:3と他の施設より男性の割合が多いが、特養は1:6、療養は1:8で、女性看護職が多い。

##### ②年 齢

老健は創設されてまだ年月がそれほど経っていないので、若い介護者が約6割と多い。最近の傾向として、介護職を目指す若人も多く、特養へも4割が20才代までと多い。老健の40才代が少ないのは常勤が多く、責任者の年齢層ではないかと考えられるが、50才代は16%と他施設と変わらない。療養の50才代は28%

表1 基本属性と介護従事形態

項 目		人 数 (%)		
		特 養	老 健	療 養
性別	男性	24(14.8)	15(26.3)	10(10.6)
	女性	138(85.2)	43(73.7)	84(89.4)
年齢	20才未満	4(2.5)	3(5.3)	1(1.1)
	20才代	63(38.9)	32(54.4)	28(29.8)
	30才代	25(15.4)	9(15.8)	17(18.1)
	40才代	34(21.0)	5(8.8)	21(22.3)
	50才代	27(16.7)	9(15.8)	26(27.7)
	60才代	9(5.6)	0	1(1.1)
家族構成	夫婦	19(11.9)	3(5.2)	10(10.6)
	夫婦と子供	62(38.4)	15(25.9)	30(31.9)
	一人暮らし	21(12.6)	19(32.8)	27(28.7)
	夫婦と親との同居	13(8.2)	5(8.6)	8(8.5)
	三世帯同居	24(14.5)	7(12.1)	8(8.5)
	母子	5(3.1)	2(3.4)	5(5.3)
	その他	18(11.3)	7(12.1)	6(7.4)
職種	介護職	108(66.7)	34(58.6)	32(34.0)
	看護職	18(10.9)	6(10.3)	49(52.1)
	事務職	16(9.7)	6(10.3)	2(2.1)
	その他	20(12.7)	12(20.7)	11(11.7)
勤務形態	常勤	130(80.5)	53(91.4)	84(89.2)
	契約	7(4.3)	1(1.7)	0
	パート	22(13.4)	4(6.9)	8(8.6)
	その他	3(1.8)	0	2(2.2)
制服の有無	有	134(84.3)	57(100.0)	84(94.4)
	無	25(15.7)	0	5(5.6)

と多い、これは看護師と介護職のベテランと思われる。60才以上になるとずっと少なく、特養では5.6%と他施設より歴史の長いことが伺える。

### ③家族構成

特養では夫婦と子供の世帯が4割と多く、三世代同居や一人暮らし、夫婦の世帯が約1割と同じくらいの比率になっている。老健ではさすがに若い世代が多いのを受けて、3割が一人暮らし、2割が夫婦と子供世帯の順に多い。療養は3割が夫婦と子供、3割近くが一人暮らしである。三世代同居は1割前後の比率で三施設ともある。

### ④職 種

調査対象者の職種は介護職が多く、特養や老健では介護職が一番多く、療養では看護職の意見も5割強と多い。療養は前述したように病院の中の一部であるために当然看護職が多く、介護職はその補佐的役割になる。特に病気が重い時には看護職ばかりの対応になり、病状が落ち着いている時には介護職の多い対応になっている。施設の成り立ちから当然のことではあるが、その確認ができた。

### ⑤勤務形態

常勤が各施設とも多く、特養ではパートで補充をしている現状がわかる。また、療養では他施設での契約職員がいないという特徴があり、特養や老健では良い介護をするには常に契約職員を補充しておいて、常勤職員が抜けたときに差し替えるようにされている。

## 3-2. 仕事について理由（複数回答）

仕事について理由は「興味があった」が26（老健）～46（特養）%と多い。次いで「これからの時代に必要」14（老健）～30（特養）%である。「介護の仕事が好き」は12（老健）～23（療

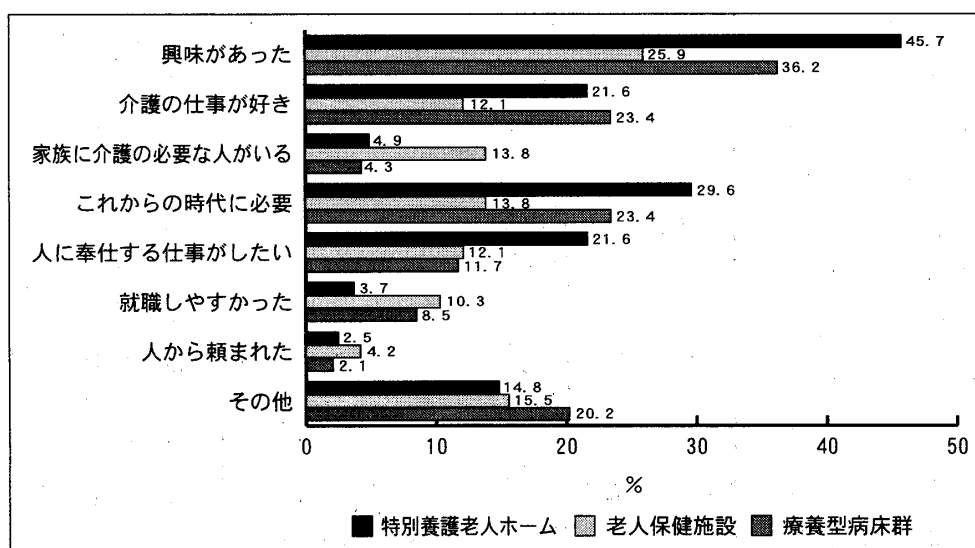


図2 仕事について理由（複数回答）

養) %ある。特養の「人に奉仕する仕事がしたい」は22%と多く、他は12%であった。老健の「家族に介護の必要な人がいる」が14%と資格取得のキッカケと考えられる。老健の「就職しやすかった」が10%であるが、現実的には難しくなりつつある。全体の割合でみると各理由に対する回答比率は老健の理由が少なく、他施設より軽い感覚で仕事についているようである。特養は歴史も長く、福祉的な考えに裏付けされた対応で、療養は三施設の中では一番最近に創設された施設であるが、病院の形態は古く、看護という視点で捉えられている。なお、複数回答を求めているので、全体の割合で%を示す。

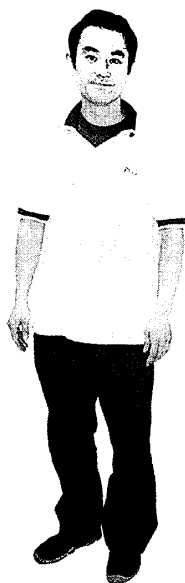
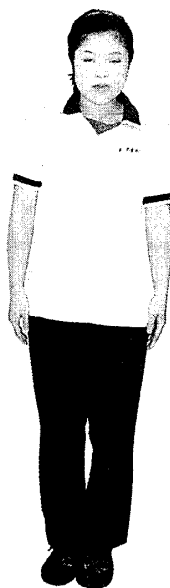
## 4. 介護服の現状

### 4-1. 介護制服の有無 (表1)

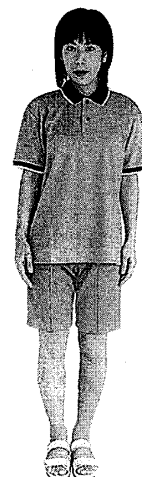
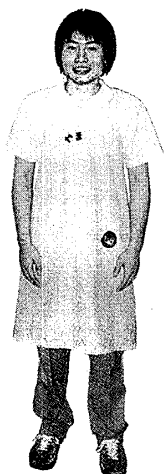
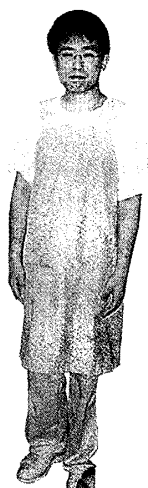
特養では長い歴史を経過して、施設長の考えで制服を採用していない施設が16%ある。これは生活介護の場であるために、普通の生活を利用者にしてもらうために一般家庭の普段着より少しカジュアルなスタイルで介護をしていたり、ただ、単に制服ではなく、ジャージ上下を着用している施設もある。前記のような考えをしっかりとって制服なしにしている施設が増えてくればよいと考える。老健では100%制服があつて、動きやすいということなどからジャージ上下を着用している施設が多い。療養では他の施設とは異なり、後記写真のようにジャージではなく、ポリエステル100%のニットで作られた薄い布地のパンツスーツで、上衣は前脇に重ねるようになっている。着用者は夏の汗を吸ってくれないので、困るとの意見が多く、ジャージも同じ意見が多い。

### 4-2. 介護服の写真

施設別に介護服の着用されている様子を写真で示す、特養ではジャージ上下衣に半袖の衿有りポロシャツかTシャツ、トレーナーなどニット素材の紺白などの制服が多い。中にはショッキングピンクの上下衣や半パンなどを採用している施設もあり、若い女性の介護者には抵抗がないが、年輩女性にとっては抵抗を感じる者もいるのではないかと思われる。老健でも特養とよく似た介護服の着用姿を見かけるが、中には認知症棟と一般棟のエプロンの色を変えて区別している施設もある。デイサービスセンターでも特養と同じような紺白のジャージ上下衣の着用が多い。療養では病院内にあるため、看護師の白衣に似た制服である。ただパンツの動きやすい形であるが、他施設ほどのスポーティさはなく、前身頃のボタンの位置が中央でなく、少し左(女性)右(男性)脇へ移動している。寒い時期も制服の上にカーディガン着用を許さない施設もある。男女別制服にエプロンや夜勤時のカーディガンなどがある。



特 養 の 制 服



老 健 の 制 服

ショッキングピンクの制服



療 養 型 の 制 服

図3 三施設の介護服

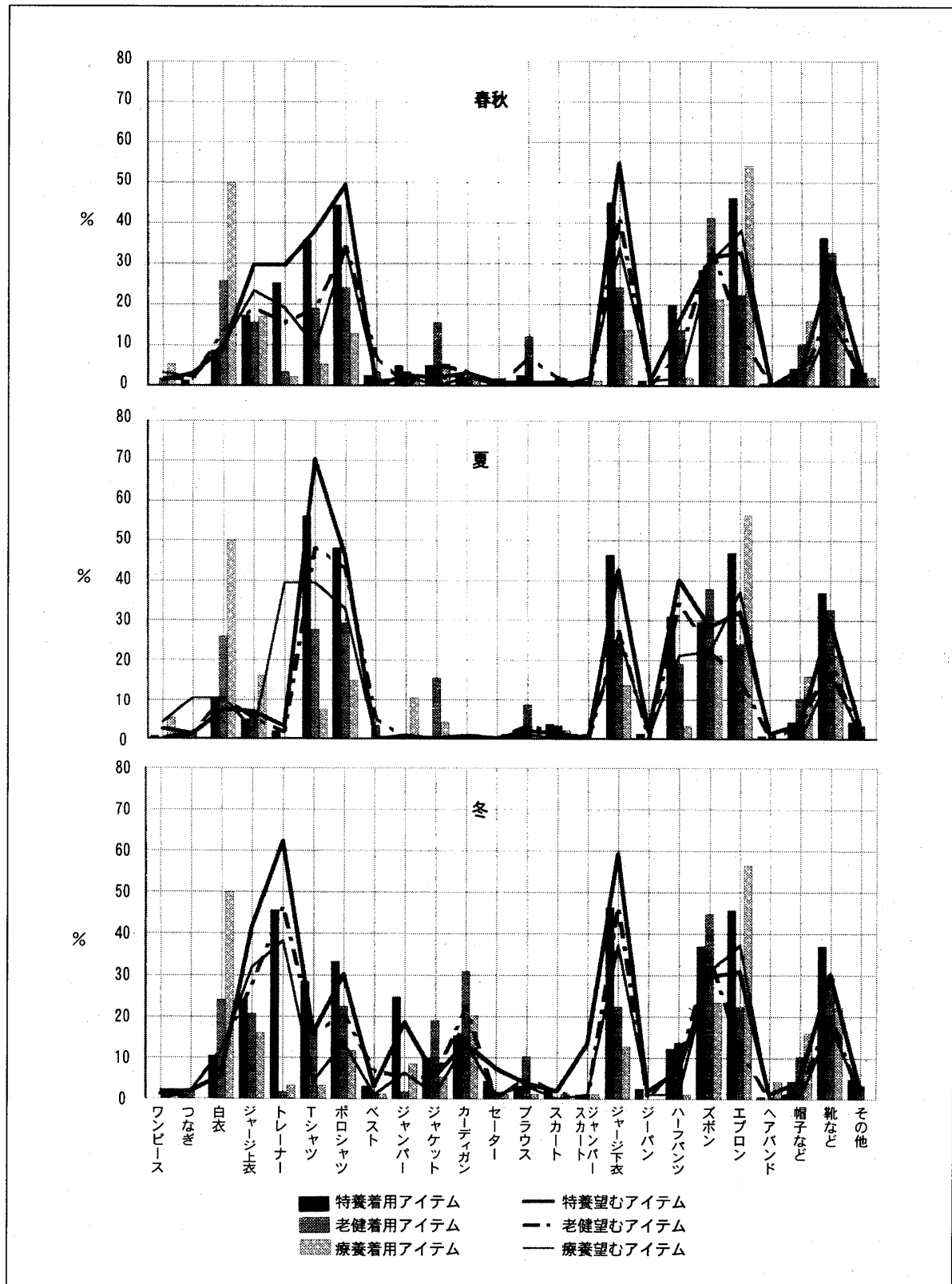


図4 季節別着用アイテムと望ましい介護服のアイテム(春秋・夏・冬)

#### 4-3. 季節別着用アイテム (複数回答)

三施設で着用されているアイテムはほぼ似たものを使用しているようであるが、特養と老健はより似たアイテムを使用している。特養ではジャージ上下を着用し、エプロンも45%以上の使用である。靴も37%である。老健ではズボンの使用が40%前後ある。療養は他施設には見られない白衣の着用が50%である。職種の項で述べているが、看護職が多いためと考えられる。また、複数回答を求めているので、全体の割合での%を示す。

次に季節別に検討する。冬の着用アイテムは上衣の4割以上がトレーナー (特養) 3割近くジャンパー (特養) カーディガン (老健) と重ね着アイテムが多く、下衣は5割近くジャージ (特養) ズボン (老健) が示されている。夏は特養でTシャツが5割以上着用され、ポロシャツも5割近くある。下衣は5割近くジャージ (特養) を着用しているが、吸水性がなく、素材的に問題があっても他の季節同様着用されている。春秋は気候的がよいが、2割弱のジャージ上衣、2割半のトレーナー、3割半のTシャツ、4割以上のポロシャツと特養の上衣は作業によって着替えていることが分かる。下衣は他季節と変わらない。

細かくチェックすることで、ジャージ上下衣を常に着用していると考えていたが、意外にズボンの着用があり、特養の日常生活介護のために汗を吸収してくれるインナーを着用し、季節感なくTシャツなども多く着用されていた。療養では白衣の看護職の方々が多く、不安定な病状に対する対応のため、特養とは異なる着用である。その中間的な施設の老健はリハビリなどを主に利用者との対応のため、特養ほど激しい動きがないのか、インナーの着用も種類が少なく、各施設のケアの特徴が伺える。

#### 4-4. 着用している介護服の問題点

三施設で着用している介護服の問題点は何かについて自由記述による回答をKJ法により三施設別に整理をしたのが、図5である。出現数の左の括弧が特養で、丸の中は老健、右の括弧は療養である。各内容を「素材」「サイズ」「縫製」「デザイン」「管理」にまとめ、その関連性を矢印で示した。素材のことについては特養や療養が多く明記され、「発汗に対応するもの」や「通気性のあるもの」「暑さに対応するもの」になっていないと問題点として示している。出現数は少ないが、老健においても同じ問題点を示し、特養のデザインについてはエプロンのひもが長すぎる、没個性、胸の名前が刺繍の方が入居者を抱えた時に安全とか、ジャンパーのファスナーも同じように入居者の肌を傷つけないために困ると明記されている。特養では特に「自由な服装がよい」と生活の場であることに関連した回答がある。「管理」についても特養の明記が多い、老健は「サイズ」について回答があった。療養は「デザイン」「素材」についての回答があった。



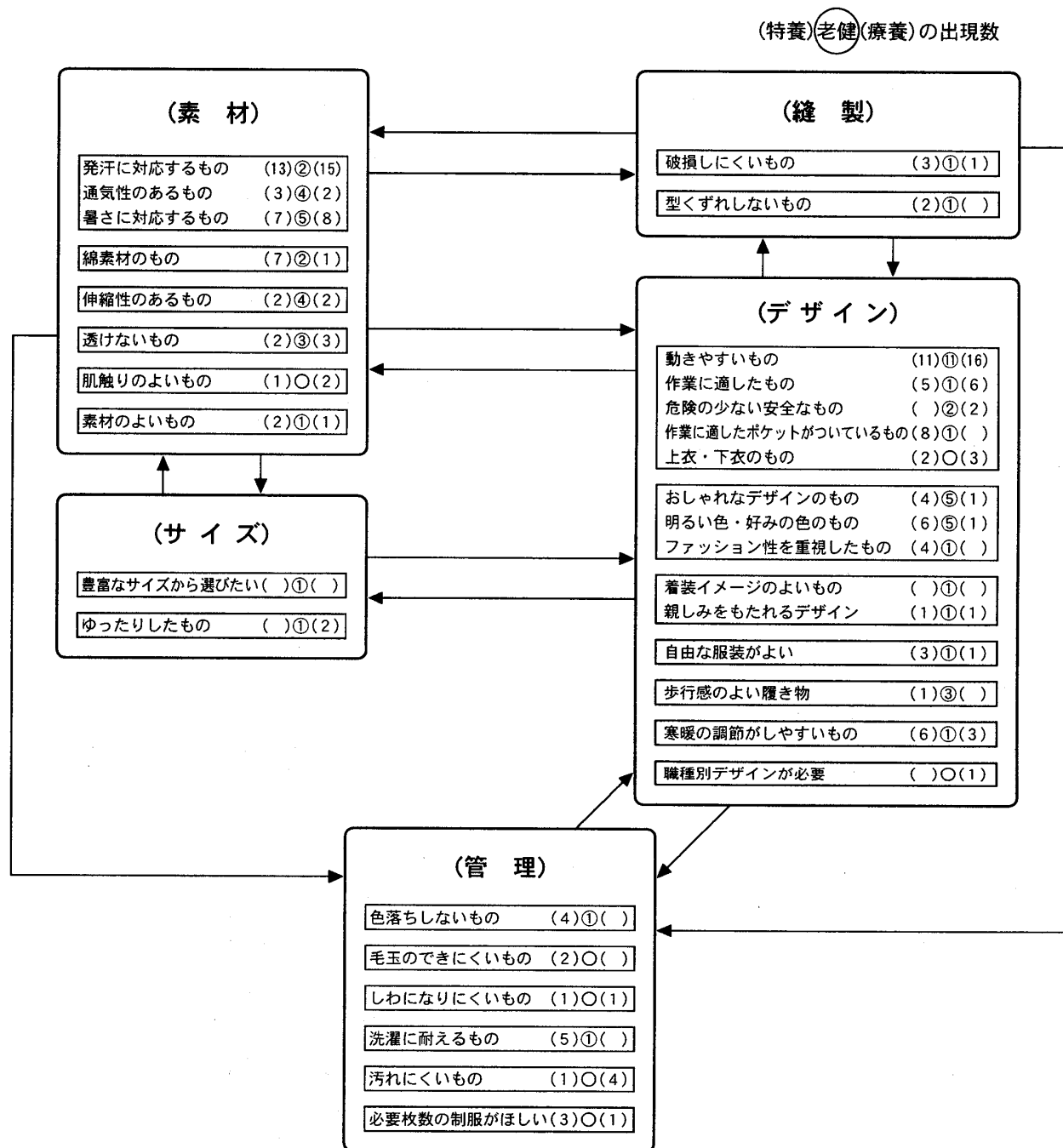


図5 介護服の問題点

## 5. 望ましい介護服

### 5-1. 望ましい介護服の重視項目

各施設によって望ましい介護服についての重視性は異なると考え、各項目に対して「重要である」「まあ重要である」「どちらとも言えない」「あまり重要でない」「重要でない」の5件法で評価を求め、全員の何パーセントの人が評価しているのかを帯グラフで示したのが図6であ

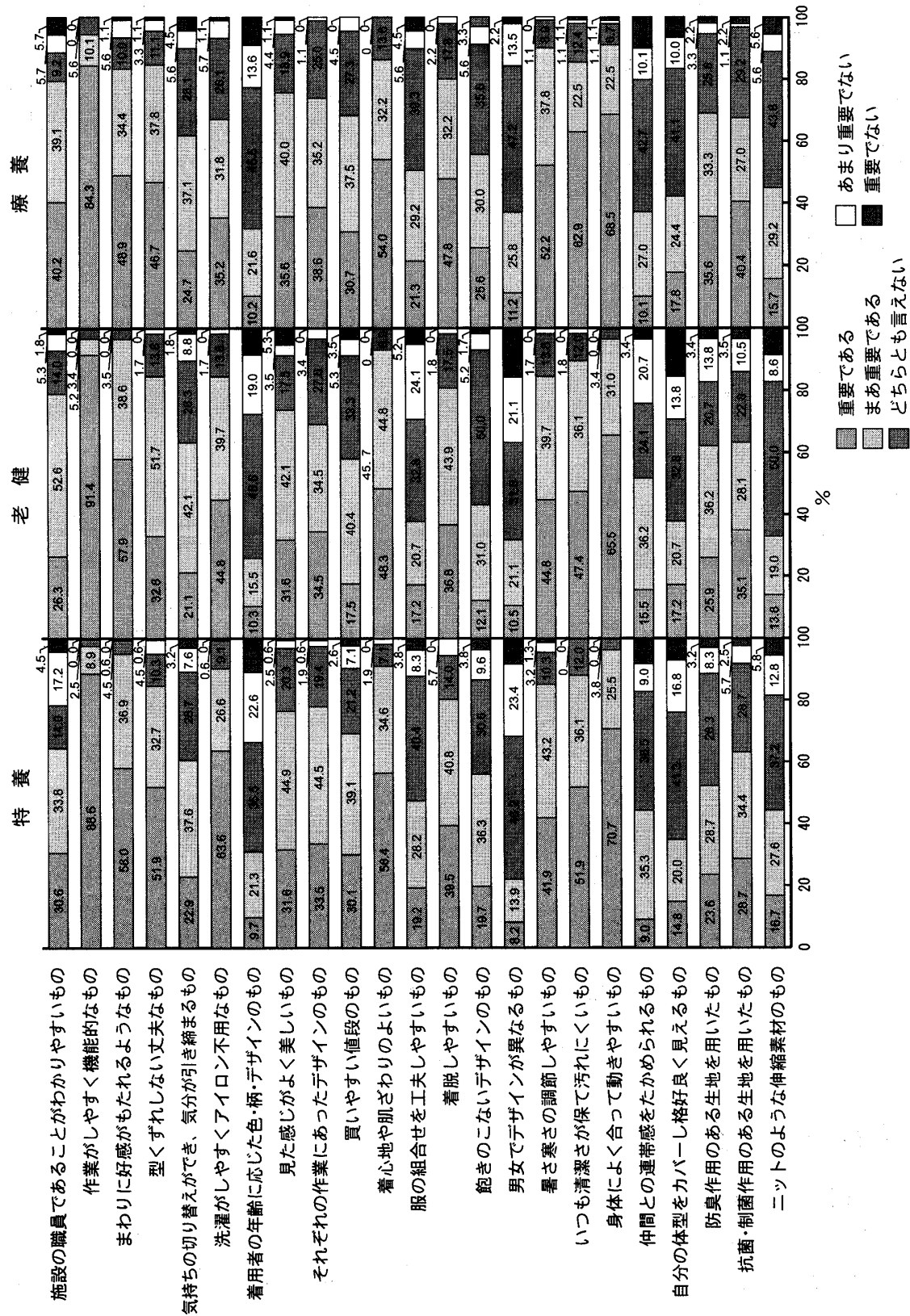


図6 望ましい介護服の重視項目

る。三施設とも2位までは同じ「作業がしやすく機能的なもの」「身体によく合って動きやすいもの」である。3位以下は特養では「洗濯がしやすくアイロン不用なもの」「まわりに好感がもたれるようなもの」「着心地や肌ざわりのよいもの」「いつも清潔さが保て汚れにくいもの」、老健では「まわりに好感がもたれるようなもの」「着心地や肌ざわりのよいもの」「いつも清潔さが保て汚れにくいもの」「暑さ寒さの調節しやすいもの」、療養では「いつも清潔さが保て汚れにくいもの」「暑さ寒さの調節しやすいもの」「着心地や肌ざわりのよいもの」「まわりに好感がもたれるようなもの」を重視している。各施設の順位が異なるものに、「洗濯がしやすくアイロン不用なもの」は特養では3位、療養14位、老健は7位となり、特養では自分で洗濯しているためにこのような順位になっている。老健は好感をもってもらい、着心地がよいことを望んでいる。療養では抗菌制菌作用や防臭作用のあるものを望み、他施設より菌に対する注意力があり、制服の暑さ寒さの調節しやすいことを望んでいることが伺える。

また、分散分析結果から有意差のある「洗濯がしやすくアイロン不用なもの」は0.000と、「男女でデザインが異なるもの」は0.009である。多重比較では「洗濯がしやすくアイロン不用なもの」「男女でデザインが異なるもの」は特養と療養との間に差があった。

これらの項目について主因子法による因子分析を行った結果、表2に示すように、固有値1

表2 望ましい介護服の重視項目 因子分析結果

因子	項 目	因子負荷量	因子の意味	因子寄与率
1	防臭作用のある生地を用いたもの	0.943	素材特性	9.7
	防菌・制菌作用のある生地を用いたもの	0.733		
	自分の体型をカバーし格好良く見えるもの	0.472		
	ニットのような伸縮素材のもの	0.339		
	いつも清潔さが保て汚れにくいもの	0.314		
	仲間との連帯感をたかめられるもの	0.257		
2	飽きのこないデザインのもの	0.586	デザイン性	9.6
	着脱しやすいもの	0.560		
	着心地や肌ざわりのよいもの	0.546		
	服の組合せを工夫しやすいもの	0.509		
	暑さ寒さの調節しやすいもの	0.455		
	買いやすい値段のもの	0.437		
	洗濯がしやすくアイロン不用なもの	0.341		
3	男女でデザインが異なるもの	0.580	標識性	8.5
	着用者の年齢に応じた色・柄・デザインのもの	0.496		
	施設の職員であることがわかりやすいもの	0.376		
4	見た感じがよく美しいもの	0.647	容儀性	8.0
	まわりに好感がもたれるようなもの	0.547		
	型くずれしない丈夫なもの	0.547		
	気持ちの切り替えができ、気分が引き締まるもの	0.366		
	それぞれの作業にあったデザインのもの	0.346		
5	作業がしやすく機能的なもの	0.631	活動性	6.7
	身体によく合って動きやすいもの	0.602		
			累積寄与率(%)	42.5

以上で5因子が抽出された。それぞれの因子に高い因子負荷量をもとに第1因子「素材特性」第2因子「デザイン性」第3因子「標識性」第4因子「容儀性」第5因子「活動性」の因子と命名した。累積寄与率42.5%である。

各施設の因子得点を図7に示した、この図から各施設の特徴がわかる。療養は「素材特性」「標識性」。特養は「審美性」「デザイン性」、老健は「活動性」に高い得点を得た。帯グラフからは分からなかったトータルな重視性について分かり、病気に一番関係のある療養では素材特性の抗菌制菌や防臭作用のある素材を活用することを考えている。リハビリ中心の施設である老健は活動性を特に重視し、生活の場である特養は容儀性やデザイン性に重きをおいていることが分かった。

## 5-2. 望ましい介護服の色

(複数回答)

介護服の色については三施設ともよく似た傾向にはあるが、老健はピンク色系を6割、白や水色系を5割、青色系を4割選び、オレンジ系・ベージュ系・紺系は2割弱である。特養はピンク色系や水色系が6割、白や青は3割、オレンジ系や黄緑系・黄色系・紺系・ベ

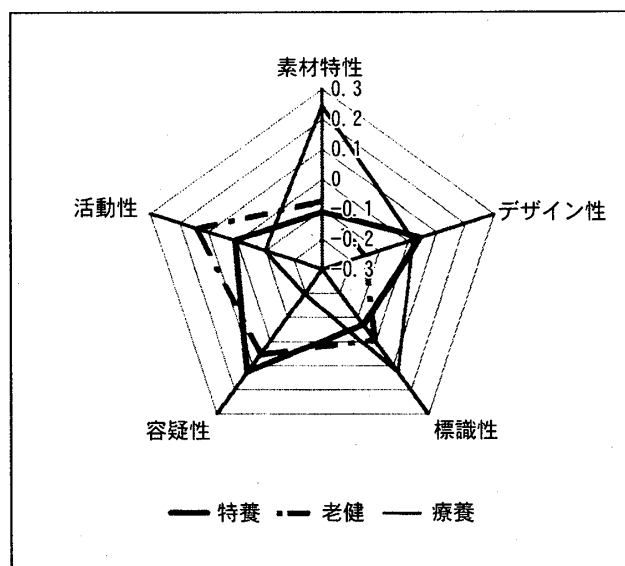


図7 望ましい介護服の重視項目 因子得点

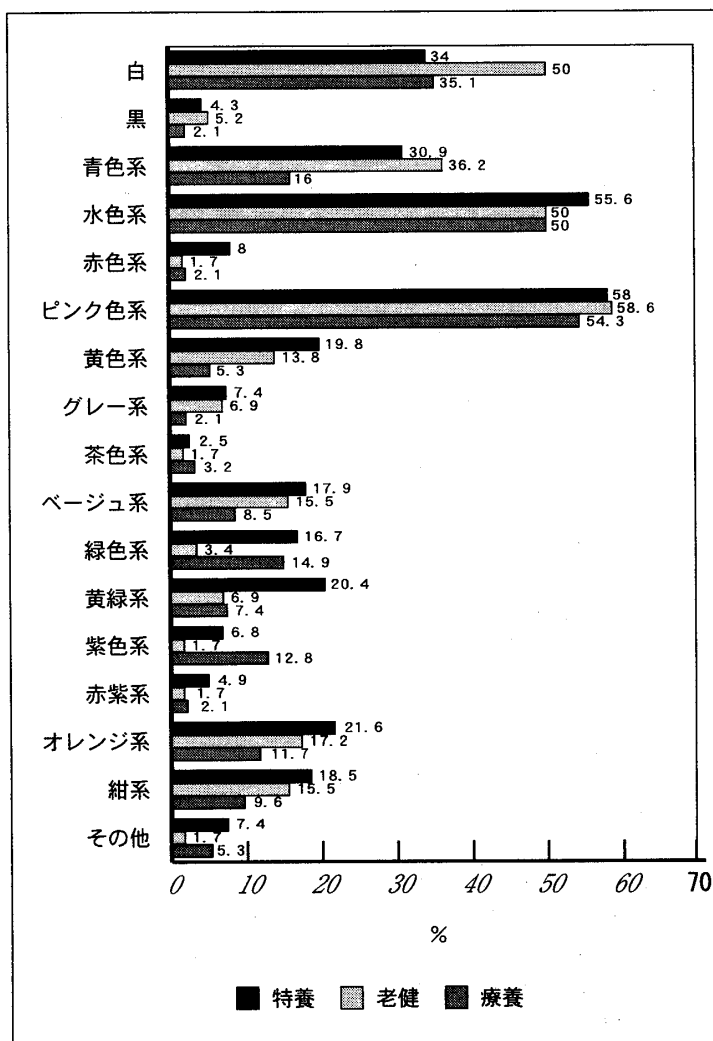


図8 望ましい介護服の色

ジュ・緑色系に2割ある。療養はピンク色系や水色系が5割、白は4割、青色系やベージュは2割弱である。

療養は病院内にあることが多く、歴史的に白衣が基本になっているためか、制限された色数を示している。特養は生活の場であるためにどんな色を使用しても良いということで、多数の色が出ている。このように施設内の生活ではあるが、色を活用することで、元気が出たり、楽しい生活になることを望む。老健は三施設の中間的な機能の施設であるが、療養よりは生活感もあり、特養より少ない色数ではあるが、元気の出る色も選んでいる。

三施設の共通上位はピンク色系 (54.3～58.6%)、水色系 (50～55.6%)、白 (34～50%)、青色系 (16～36.2%) の順である。明度の高い淡い色がよく、利用者に対して緊張感を持たせず、快適な雰囲気造りには淡い黄色や薄い緑系もよいと考える。

### 5-3. 望ましい介護服のイメージ

望ましい介護服のイメージは三施設とも明るく親しみやすく、明るい、シンプルな、スポーティななど、似た傾向にあるが、三施設の差の大きい順は「落ち着いた」「地味な」「やさしい」「大胆な」「ゆったりとした」「明るい」「暖かい」「カジュアルな」「活発な」「ゆったりとした」である。そのイメージの高い値がその施設の特徴である。各施設のイメージを次に示す。

特養は「明るい」「暖かい」「カジュアルな」「シンプルな」イメージを望み、

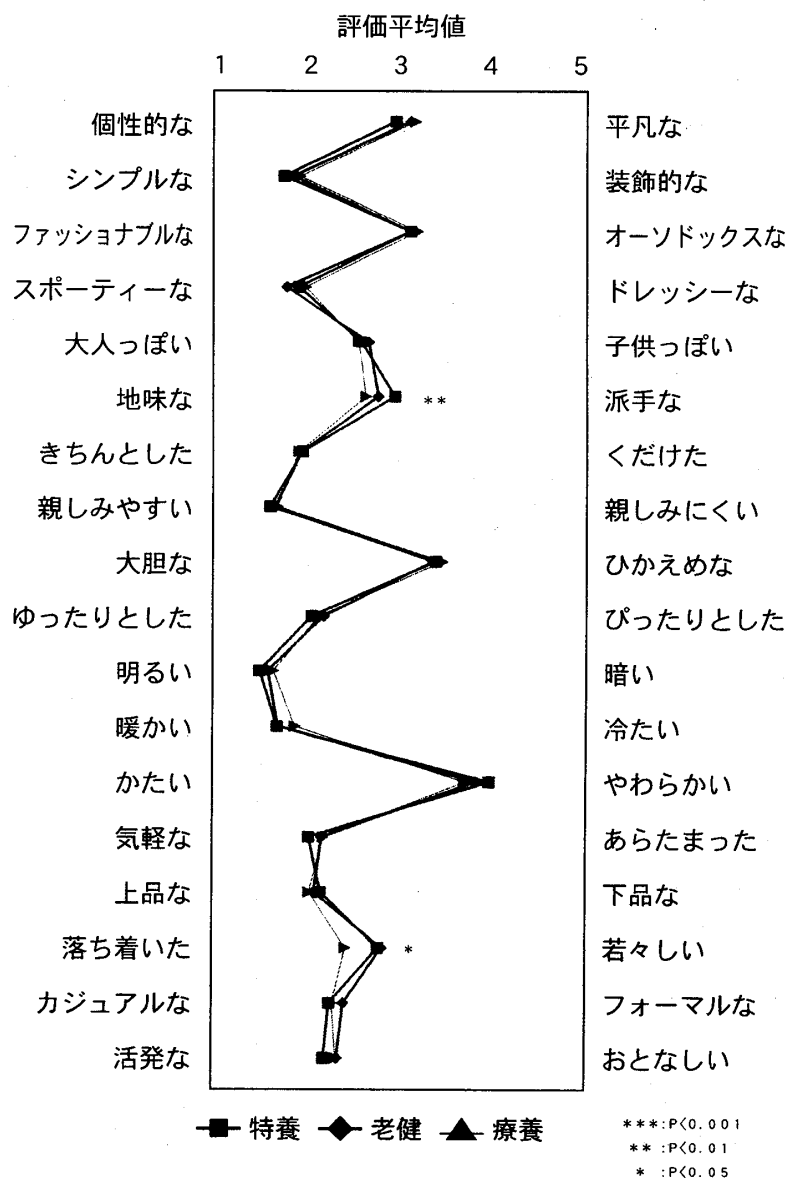


図9 望ましい介護服のイメージプロフィール

表3 望ましい介護服のイメージ 因子分析結果

因子	項	目	因子負荷量	因子の意味	因子寄与率
1	カジュアルな 活発な 気軽な スポーティーな ゆったりとした シンプルな	フォーマルな	0.734	カジュアル性	13.6
		おとなしい	0.684		
		あらたまった	0.565		
		ドレッシーな	0.524		
		ぴったりとした	0.394		
		装飾的な	0.391		
2	明るい 暖かい 親しみやすい	暗い	0.826	親しみやすさ	12.1
		冷たい	0.688		
		親しみにくい	0.473		
3	大人っぽい 上品な 地味な きちんとした	子供っぽい	0.626	容儀性	8.4
		下品な	0.499		
		派手な	0.466		
		くだけた	0.418		
4	個性的な ファッショナブルな 大胆な	平凡な	0.670	ファッション性	8.0
		オーソドックスな	0.636		
		ひかえめな	0.562		
5	落ち着いた かたい	若々しい	0.450	落ち着き	3.3
		やわらかい	0.328		
				累積寄与率(%)	45.5

療養は「上品な」「落ち着いた」「地味な」を望んでいる。老健は「スポーティーな」「ひかえめな」である。老健はリハビリを主に考えられ、「スポーティーな」イメージを望むが、「ひかえめな」も望んでいる。療養は医療関係施設なので、「上品な」「落ち着いた」「地味な」を望んでいる。特養は生活介護の場であるために「明るい」「暖かい」イメージと「カジュアルな」「シンプルな」イメージを他施設より強く望んでいる。

分散分析結果から有意差のある「地味な／派手な」は0.002で、「落ち着いた／若々しい」は0.037を示している。両イメージとも特養と療養との間に差があった。

これらの項目について主因子法による因子分析を行った結果、固有値1以上の5因子が抽出された。因子負荷量をもとに第1因子「カジュアル性」第2因子「親しみやすさ」第3因子「容儀性」第4因子「ファッション性」第

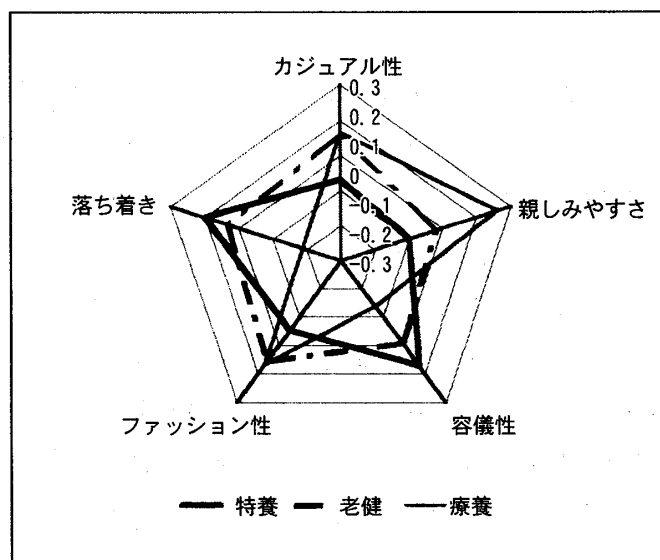


図10 望ましい介護服のイメージ 因子得点

5 因子「落ち着き」の因子と命名した。累積寄与率45.5%である。

各施設の因子得点を図10に示した。各施設が重要と考えているイメージは、特養は「落ち着き」と「容儀性」で、老健は「カジュアル性」と「ファッション性」、療養は「親しみやすさ」「ファッション性」「カジュアル性」に因子得点が高い。イメージプロフィールでは解らなかったトータルなイメージが解り、生活の場である特養では落ち着きのあるイメージ、リハビリ中心の介護施設老健ではカジュアル性を、病院の一部分である療養ではやわらかく親しみやすいイメージを望んでいると考えられる。

#### 5-4. 介護服の柄（複数回答）

介護服の柄は全体の傾向と似ているが、8割（療養）から9割（特養）の人が無地と回答したが、老健だけが34%の水玉があり、やさしいイメージの花柄と答えたのは特養の7.4%を示している。その他は1割以内である。配色のよい無地をあわせて、ワンポイント柄を胸にあることがよく、特に利用者からの要望の着用者の名前を大きく刺繍されていることが望ましい。

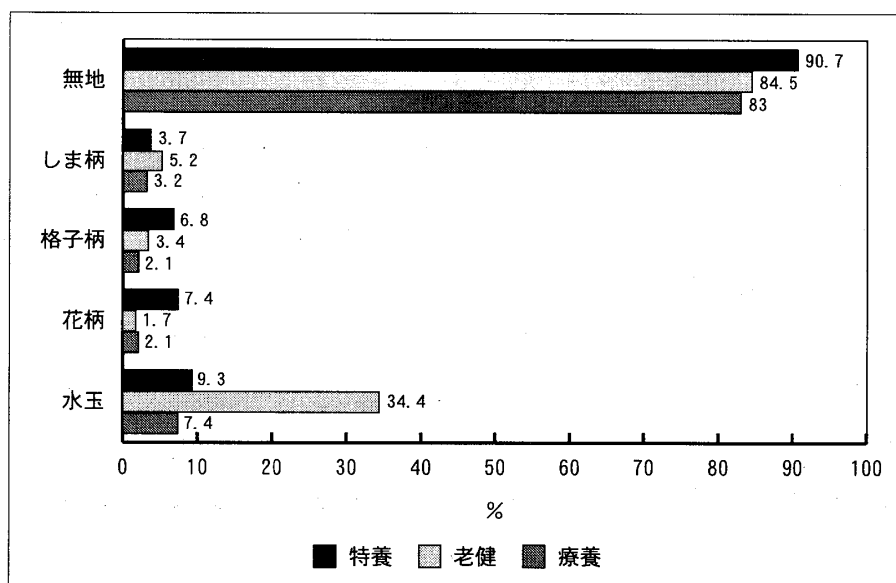


図11 望ましい介護服の柄

#### 5-5. 望ましい介護服季節別のアイテム（複数回答）（図4）

望ましい介護服のアイテムは現状とよく似た傾向であるが、現状を棒グラフで示し、望ましい介護服を折れ線グラフで示した。現状を踏まえて特徴的なことを季節別に示す。

冬はトレーナーを6割の人が望んでいる、夏はTシャツを7割の人が望み、春秋はポロシャツを5割の人が望んでいる。特養が一番目立つ数値を示し、下衣ではジャージが冬6割の人が望み、春秋は5割強の人が望んでいる。ズボンについては夏4割の人が望んでいる。療養での

制服規制が厳しいための反動か、トレーナー、Tシャツ、ジャージ下衣、ハーフパンツに対する着用希望が多い。意外であったのはエプロンの使用を減らしたいという意見が季節を問わず出ている。

## 6. ま と め

- 1) 三施設における介護服のアイテムは特養と老健はほぼ似たジャージの制服だが、療養では淡い色のパンツスーツである。白衣着用者も5割いた。
- 2) 介護服の問題点としては特養の回答が多く、素材、デザイン、管理に対して明記し、老健ではデザインや素材についての問題点も明記している。
- 3) 望ましい介護服の重視評価項目は三施設とも「作業がしやすく機能的なもの」「身体によく合って動きやすいもの」である。特養では施設内での印象も良くしたいと考えられている。老健は好感をもってもらい、着心地がよいことを望んでいる。療養では抗菌制菌作用や防臭作用のあるものを望み、他施設より清潔感を望み、制服の暑さ寒さの調節がしやすいことを望んでいることが伺える。

また、主因子法による因子分析をし、因子得点を求めると、療養は「素材特性」「標識性」。特養は「審美性」「デザイン性」、老健は「活動性」に高い得点を得た。

- 4) 望ましい介護服の色は療養は病院内にあることが多く、歴史的に白衣が基本になっているためか、少ない色数を示している。特養は生活の場であるためにどんな色を使用しても良いということで、多数の色が出ている。

このように施設内の生活ではあるが、色を活用することで、元気が出たり、楽しい生活になることを望む。老健は三施設の中間的な機能の施設であるが、療養の治療とは異なり、生活リハビリを考え、特養よりは少ない色数ではあるが、元気の出る色も選んでいる。

- 5) 望ましい介護服のイメージは三施設とも似た傾向にあるが、老健はリハビリを主に考え、「スポーティな」イメージを望むが、「ひかえめな」も望んでいる。療養は医療関係施設なので、「上品な」で「落ち着いた」「地味な」イメージを望んでいる。特養は生活介護の場であるために「明るい」「暖かい」イメージと「カジュアルな」「シンプルな」イメージを他施設より強く望んでいる。

また、主因子法による因子分析をし、因子得点を求めると、特養は「落ち着き」と「容儀性」で、老健は「カジュアル性」と「ファッション性」、療養は「親しみやすさ」「ファッション性」「カジュアル性」に因子得点が高い。生活の場である特養では落ち着きのあるイメージ、リハビリ中心の介護施設老健ではカジュアル性を、病院の一部分である療養ではやわらかく親しみやすいイメージを望んでいると考えられる。



- 6) 三施設の望ましい介護服の柄は8～9割の人が無地と回答し、老健だけが34%の水玉があり、やさしいイメージの花柄は特養で7.4%を示している。配色のよい無地をあわせて、ワンポイント柄を胸にあることがよく、特に利用者からの要望でもある着用者の名前を大きく刺繍されていることが望ましい。
- 7) 望ましい介護服のアイテムは現状とよく似た傾向であるが、特養の冬はトレーナーを6割の人が望んでいる、夏はTシャツを7割の人が望み、春秋はポロシャツを5割の人が望んでいる。下衣ではジャージを冬6割の人が望み、春秋は5割強の人が望んでいる。ズボンについては夏4割の人が望んでいる。療養での制服規制が厳しいための反動か、トレーナー、Tシャツ、ジャージ下衣、ハーフパンツに対する着用希望が多い。意外であったのはエプロンの使用を減らしたいという意見が季節を問わず出ている。

以上のように三施設における成り立ちや歴史が異なり、介護服に対する考え方も異なることが分かった。各施設のニーズにあう介護服を採用し、デザインも考えるべきである。

なお、この研究は財団法人日本ユニフォームセンターより基礎研究助成金の交付を受けたことを付記し、日本家政学会・日本繊維機械学会・日本介護福祉学会で報告したものをまとめた。

#### 参考文献

- 1) 田岡洋子著「イラストでわかる生活・色彩」新風書房 2000
- 2) 田岡洋子・近藤信子・福村愛美・中川早苗「施設介護や居宅介護に携わる介護者のための介護服について」日本繊維機械学会第54回年次大会研究発表論文集 2001
- 3) 田岡洋子「施設介護のための介護服について — 特別養護老人ホーム・老人保健施設・療養型病床群の比較 —」日本介護福祉学会第9回年次大会研究発表抄録集 2001
- 4) 田岡洋子・近藤信子・福村愛実・中川早苗著「施設介護や居宅介護に携わる介護者のためのユニフォーム提案」報告書 平成13年2月 財団法人日本ユニフォームセンターへ提出